

令和 7 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
多角化経営部門

コメ輸出の道を農家 3 人で切り拓き、輸出を通じて地域の活性化に貢献

○氏名又は名称 株式会社 芦別 RICE（代表 沼田 哲男）

○所 在 地 北海道芦別市

○出 品 財 経営（水稻）

○受 賞 理 由

・地域の概要

芦別市は、北海道のほぼ中央に位置する中山間地域であり、水稻を中心に、野菜、花き等との複合経営が主体である。炭鉱閉山以降、人口減少が急速に進んでいる。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

少子高齢化に伴い将来の国内需要が先細りとなる中、農協合併により「芦別米」の名が消えること、地域の農地と人口の減少が進むことに危機感を感じ、平成 23 年に地元の若手農家 3 人で農業生産法人を設立し、平成 27 年に米輸出の取組を開始した。香港を皮切りに、シンガポール、米国と輸出先を広げ、令和 6 年には 24 戸、228ha の協力農家を含め 1,287 t のコメを輸出しており、生産者自身によるコメ輸出の取組としては、全国最大級となっている。

・受賞者の特色

（１）輸出先拡大に向けた取り組み

若手農家 3 人が香港向けに始めたコメ輸出であるが、農機メーカーによる玄米輸出との連携により、大幅に輸出規模が拡大した。さらに、海外現地との直接取引のために ISO22000 を取得、また FSSC22000 も近々に認証予定であり、欧州での精米輸出を目指し精米施設整備を行ったところ。更に TPP に加盟した英国向け精米輸出も視野に入れており、新規の販路開拓と共に順調に輸出量を伸ばしている。

（２）スマート農業化により若者をつなぎとめる

ロボット田植機や無人トラクター等の最先端技術の導入により、大区画整備された水田で、代かきと田植え作業の時間を半減させるとともに、新しい技術に関心を持つ若者を積極的に雇用し人手不足を解消した。さらに冬季の仕事として道内の防除用ドローン 200 台の点検整備、防除スクールの運営を受託している。

（３）女性の活躍

女性社員も積極的に企画会議に参加し、商品開発や広報・デザインなどを担っている。地元の道の駅の農産物販売店を事業承継した際は、地域の女性 8 名を雇用。

・普及性と今後の発展方向

令和 6 年に立ち上げた「芦別 RICE 北海道米輸出拡大推進協議会」では、農機メーカーなどの協力を得つつ、輸出の取組を広げ、令和 7 年には、北海道全域で農家 36 戸／2 団体／3 業者が参画するまでになっている。また、第 3 者継承を視野に、若手社員を後継者のいない農家や農業法人に派遣するなど、芦別の農業を次世代にバトンタッチする橋渡し役を担おうとしている。